

第 1 回中間報告

(2014 年 8 月 24 日～11 月 25 日)

国際ロータリー第 2710 地区
2014/15 年度グローバル補助金奨学生
University of Birmingham
MSc Global Cooperation and Security
新口慎太郎

派遣ホストクラブ及びカウンセラー：三原ロータリークラブ
出田啓治様
受入地区：第 1060 地区
受入ホストクラブ及びカウンセラー：無し

バーミンガムとバーミンガム大学について

2014年8月24日より国際ロータリーグローバル補助金の奨学生としてのバーミンガムでの私の留学生活が始まりました。バーミンガムはイギリスのイングランド中部に位置し、18世紀の産業革命をきっかけに交通の要所、また工業都市として発展した都市で、現在はロンドンに次ぐイギリス第2の都市とも呼ばれています。市の中心部には大きなショッピングセンターや国際会議場、コンサートなどが開かれる大きな文化ホール、また国際空港などもあり、非常に活気のある文化的な街です。



バーミンガムの街並みと運河

しかし都会の喧騒を一步離れると緑や川などの自然が豊かな街でもあります。バ

ーミンガムはイタリアのヴェニスよりも多くの運河があることでも知られており、「ナローボート」と呼ばれる細長いボートが今でも運河を行き交っています。

バーミンガム大学は1900年に当時のイギリスの君主・ビクトリア女王の勅許によって宗教や階級背景などにかかわらず、全ての学生を平等に受け入れるイギリスで最初の都市（市民）大学として設立されました。そのような歴史的背景もあってか、非常に国際色が豊かな大学で、150ヶ国以上の国から毎年約5000人の留学生を迎えており、特に大学院における留学生の在籍者数はイギリス国内の高等教育機関では最大とされています。私はそのバーミンガム大学の大学院修士課程でGlobal Cooperation and Security（国際協力と安全保障）というコースを専攻しています。

学業面での成果

渡英してからの最初の4週間は英語のコースに参加していました。このコースは必修ではないのですが、私は留学経験が無く、学業面でも生活面でも分からないことや不安なことが多かったため、このコースを通してイギリスでの学生生活に適應して大学院でのスタートをしっかりと切りたいと思い、このコースに参加することにしました。このコースでは主に英語での論文やレポートの書き方、大量に課される本や論文などの文献をどのようにして読み進めていくか、プレゼンテーションやディスカッションの行い方を学びました。特に英語での論文やレポートなどの学術的文章の書き方は非常に難しく、文献の引用・参照の仕方はもちろん、文章全体や各段落の構成の仕方、論の進め方などにも細かな共通ルールがあり、日本語で書く場合との様々な違いを感じました。しかし、この英語での学術的文章の書き方を学ぶことで、課題として出される文献などがどのような構成で書かれているかを理解することができ、より効率的に論文などを読むことができるようにもなりました。

この4週間の英語のコースには大学院での専攻が異なる学生がクラスメイトになり、そのため授業や課題で扱う内容も「地球温暖化」「人口問題」「教育問題」など一般的なもので、これらのトピックについて各国からの留学生とディスカッションやプレゼンテーションなどを行いました。同じトピックでも生まれ育った国や環境が違えば意見も異なり、それぞれの国が抱える独自の問題や違った視点などを知ることができました。



バーミンガム大学のキャンパスの風景

4週間のコースを終え、9月末からは大学院の授業が始まりました。1学期目にあたる秋学期では3つの授業を履修しています。その中の1つに必修科目のFear, Co-operation and Trust in World Politics（国際政治における恐れ、協力、信頼）という授業があります。この授業では国際関係論の理論を中心とした授業で、「国際社会において国家間の関

係を形作るのは不安や恐れなのか、協力なのか、それとも信頼なのか」という視点で実際に国際政治の歴史上で起こった様々な事例を分析します。今までの授業では冷戦時代のキューバ危機やパレスチナとイスラエルの問題、旧ユーゴスラビアへの人道的介入などを扱ってきました。このようなケーススタディは日本での学部生時代にもゼミの勉強でよく行っていました。私が一番に感じる違いは資料や情報の量です。日本でケーススタディを行うときにはどうしても日本語で書かれた文献や日本語に訳された資料のみを情報源としてしまっていました。英語でとなるとアクセス可能な情報は圧倒的な量に増え、多くの国の外交文書や国連や国際機関などの資料はほとんど全てが利用可能になります。このことを言い換えると、留学生を含め学生はそれらの資料を「読んで当たり前」と教授からは見なされます。旧ユーゴスラビアへの人道的介入のケーススタディでは国連安全保障理事会の議事録を読んだり、キューバ危機のケーススタディではアメリカの当時の大統領であるケネディ大統領とソ連のフルシチョフ第一書記がこの問題を巡って数日間にわたって交わした手紙を読んだりしました。

こういった授業内容、またその授業のための課題や資料・文献の読破は私にとって非常に難しく、また厳しいものです。学期当初は文献などを読み切れないこともあり、またせっかくな文献を読んで準備をして授業に臨んでもなかなか自分の意見を言うことができませんでした。ただ時間が経るにつれそういった不安や悩みは少なくなってきました。まだまだではありますが少しずつ授業や日々の学習における吸収力を高められていると感じています。

受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動

イギリスに来てからは奨学生としてロータリーの大きなイベントに二度参加させていただきました。9月26日～28日にウェールズのカーディフで行われた2014/15年度奨学生の交流イベントでは、本年度イギリスに留学する奨学生とともにオリエンテーションのような形でこの1年間奨学生としてどのように過ごしていくべきかということや現地のロータリークラブやロータリアンの方たちとどのように関わっていけばよいかというお話を聞きました。また奨学生同士でも意見や体験談を共有することができました。私より数か月早く渡英していた奨学生は既にホストクラブ以外のRCから例会に招かれ、大学院で研究予定の内容のプレゼンなどをされていました。また11月7日～9日に行われた地区大会にも出席させていただきました。第1060地区は毎年地区大会を地区外で行っており、今年はブリストルという都市で行われました。地区大会はたくさんのロータリアンの方々とお会いする貴重な機会となりました。またブラッドフォード大学への平和フォローをはじめ、たくさんの方の講話を聞くことができました。特にロータリーの「安全な水」への取り組みの一つである「砂のダム」の取り組みが、それまで無駄になっていたアフリカでの雨水をいかに有効に、そして安全な水資源に変えているかというお話は非常に興味深く、他地域への応用やさらなる可能性を感じさせられました。また地区大会では貴重な経験もしました。イギリスでは第一次世界大戦の終戦記念日にあたる11月11日に最も近い日曜日に、同大戦以降の全ての戦没者に対する追悼式典が行われ、11時に黙祷を捧げます。地区大会最終日の11月9日はちょうどその日にあたり、ロータリアンの方たちと一緒に黙祷を捧げました。私たち日本人がヒロシマ・ナガサキの原爆の日や終戦の日や黙祷を捧げるのと同じように、例えば場所や時間、戦争に関わった立場は違って、亡くなった方たちへの思いや平和への祈りは一緒なのだと感じさせられました。

受入地区である第1060地区では奨学金制度が変わってから奨学生を受け入れるホストクラブとカウンセラーつける体制をとっていないようで、私は現在イギリスではホストクラブもなくカウンセラーの方にもついていないという状況です。同じ第1060地区にはもう一人奨学生がいるのですが、その方も同じ状況でした。そのため現実として他の奨学生に比べてロータリーとの関わりは非常に限られたものになってしまっています。

しかし、幸いなことに地区大会でお会いしたロータリアンの方たちとは個人的に連絡を取らせていただいております、先日もロータリアンの方のホームパーティーに招待していただき、そこでまた多くのロータリアンの方にもお会いすることができました。また地区大会でお会いしたロータリアンの方の中に53年前に私の地元の三原にロータリー



地区大会にて第1060地区奨学金及び平和フェロー担当のポールさんと

の関係で来られたことがあるという方がいらっしゃいました。その方が住んでいるコヴェントリー市の旧コヴェントリー大聖堂には広島平和公園国際会議場にある「和解の像」と同じものがあるそうです。これらの像はかつて双子の像と呼ばれていましたが、現在では平和の象徴としてドイツのベルリンや北アイルランド、また平和研究で有名なブラッドフォード大学にも同じものがあるそうです。そのロータリアンの方からは例会やロータリーの活動でなくとも、プライベートでよいからコヴェントリーに足を運んで欲しい、またその時には是非連絡してほしいとお願いいただき、このようなご縁を大切にしていきたいと強く思いました。原爆の日の8月6日にはコヴェントリーでも毎年平和祈念の集いが開かれているそうです。

奉仕活動への参加はまだできていないのですが、バーミンガムのローターアクトクラブに参加させていただいています。ローターアクトクラブは30歳までの青年を対象としたロータリーの提唱する奉仕クラブで、イギリスではこのローターアクトの活動が非常に盛んでバーミンガムにも5つのローターアクトクラブが存在します。大学を基盤にしているクラブも多く、学生の奉仕活動の場、またロータリークラブを含む地域コミュニティとの交流の場ともなっているようです。私の参加しているローターアクトクラブはまだ立ち上げられたばかりで、これから私もこのローターアクトクラブの土台を作るのに積極的に関わることができればと思っています。

直面した課題、問題点等

今までのところ困っていることはありません。友人にも恵まれ、忙しい毎日ではありますがとても充実した学生生活を送ることができています。また、お会いしたロータリアンの方たちにも「何か困ったことや分からないことがあればいつでも相談して」と言っていただけ、非常に心強く思っています。

今後の目標、課題

今後の目標はより積極的に授業でのディスカッションやグループワークに参加し、授業に貢献することです。現実として今は英語圏の学生に圧倒されており、また自分の中にも「留学生」としての甘えがあるのも事実だと思います。今までは授業で課される最低限の課題をこなしていくのがやっとでしたが、これからは授業の枠を超えて自分の研究の幅を広げていきたいと思っています。夏にはNGOでのインターンシップを予定しており、それに向けてもしっかりと準備をしていきたいと思っています。

またロータリーともさらに積極的に関わっていききたいと思っています。こちらでのカウンセラーがいないため、これまでは受け身のかたちでロータリーと関わっていましたが、地区大会をきっかけに多くのロータリアンの方たちと繋がりを作ることができました。これを生かしてロータリーとの関わりを深め、またローターアクトクラブの活動もさらに盛んなものにし、奉仕活動や地域コミュニティに携わっていききたいと思っています。